

朝、昇降口のポーチの下で、うずくまっている男の子。どうしたのかな？と近寄って行くと、手元が動いている。何をしているのかな？近寄って声をかけると、「鉛筆けずっとるの」と言う▼見せてもらおうと、えんぴつではなく、木の枝をえんぴつのように削っている。「学び舎の先生がしていたから」そう教えてくれた▼手に持っていたのは、木の枝とカッターナイフ。鉛筆をけずるなら“肥後守”だろ、と心の中でつぶやきながら、手元を見てみると、カッターの刃が、枝に対して直角になっている。カッターナイフで、枝をこすっている状態▼たのまれたわけではないが、「かしこごらん。ナイフの刃はこうやって寝かせて、ここを左手の親指で押さえて・・・」とやって見せた▼次の日になると、今度は同じ学年の別の子が、同じように木の枝をカッターナイフで削っていたが、やっぱり削り方がなっていなかったもので、昨日と同じように頼まれてないけど、教えた▼職員室に戻ると、教頭先生ともう一人の先生が、カッターナイフのことを話題に話していた。「カッターナイフで木の枝を削っている話ですか？」「そうですそうです・・・」▼どうも雲行きが怪しい。図工室から借りたカッターナイフを別の目的に使ったり、家からカッターナイフを持ってきたりしていることが判明した。大きな事故につながってしまっは元も子もない。歯切れが悪い。